仙波東照宮　～家康をしのんで～(重要文化財)

喜多院の南側には、仙波東照宮があります。元和 3 年(1617 年)、家康の遺骸を久能山から日光へ運ぶ途中、喜多院で法要が営まれたことにより、後の寛永 10 年(1633 年)に建立されました。

日光・久能山とともに三大東照宮といわれています。現在の建物は寛永 17 年(1640 年)に再建されたもので、重要文化財に指定されています。

仙波東照宮は、喜多院第 27 世住職天海僧正が徳川初代将軍家康公を祀ったものです。
家康公は、元和 2 年（1616）4 月 17 日、75 歳で薨去されると、いったんは静岡県の久能山に葬られましたが、家康公の遺言に従い、元和 3 年（1617)、2 代将軍秀忠は亡父家康公の遺骸をあらためて日光に移葬しました。
その時、久能山から日光に至る道中、同年 3 月 15 日出発して、道中の各宿に泊りつぎ、同 23 日、仙波喜多院の大堂（薬師堂、のちに東照宮本地堂とも言いました）に到着しました。
このところで天海僧正 は親しく導師となって、3 月 26 日まで、実に 4 日間、衆僧を集めて、丁重な法要を厳修しました。
この長い法要を終えて、次宿・行田忍にお送りした後の元和 3 年（1617）9 月 16 日、天海僧正は家康公在世の渥恩に感謝の気持ちを伝えるため、また遺柩止留の跡として、家康公の像（高さ八寸八分）を作り、大堂に祀ったのが東照宮の初めです。
天海僧正は、この東照宮を広く多くの方に崇拝してもらうため、現在のこの地に高さ五間の丘陵を築きあげて立派な社殿を造り、寛永 10 年（1633）11 月 16 日遷祀しました。

同年 12 月 24 日には、後水天皇が宸翰御神号として「東照大権現」の勅額を下賜されました。ところが寛永 15 年（1638）1 月 28 日、川越街に大火災が起こり、仙の神社、堂塔、門前屋敷まで延焼してしまいました。これを聞いた 3 代将軍徳川家光は、直接東照宮再建の計画を立て、同年 3 月、川越城主堀田加賀守正盛を造営奉行に命じ、天海僧正を導師として、寛永 17 年（1640）5 月竣工しました。現在の社殿はこのときのものです。
以来、社殿並びに神器等はすべて幕府が運営するものとなりましたが、もともと自祭であり祭資は幕府からいただいておりませんでした。そこで喜多院第 29 世住職周海僧正（天海の高弟）は祭典の完備を期して、寛文元年（1661）3 月、松平伊豆守信綱（川越城主）を介して、4 代将軍徳川家綱にお願いをし、大仙彼の地 200 石を祭資に供せられました。
その後、幕府の手でたびたび修理を加えられ、弘化 4 年（1847）にもっとも大きな修理を行いました。
明治 2 年（1869）、諸領一般上地の令により社領を奉遷し、逓減割となり、同年の神仏分離令により、喜多院の管理を離れました。

厳島神社（銭洗弁財天）

毎月第 3 日曜日は、川越熊野神社の末社である厳島神社（銭洗弁財天）の縁日が開催されます。
境内では、野菜の販売や神楽殿でのお囃子などが行われ賑わいます。
また、午前 11 時と午後 3 時に参拝記念として先着 50 名様に宝池でお清めした御福銭を無料で頂くことができます。

宝池

御祭神：市杵島姫命（いちきしまひめのみこと）
ご利益：財運

平成 19 年 6 月 17 日の厳島神社例祭日に合わせ川越銭洗弁財天が再興しました。
川越熊野神社がもともと属していた蓮馨寺は、正式には「狐峯山 宝池院 蓮馨寺」と言います。その名のとおり、境内には「宝池」と呼ばれる池がありました。その当時の宝池と水源が同じ井戸より水を引き、宝池を復活させたそうです。この宝池で金銭を洗い清めると同時に心身を清めて行いを慎めば、不浄の塵垢が消えて清浄の福銭になります。

葵庭園とホタルについて

川越大師喜多院の境内に仙波東照宮葵庭園（せんばとうしょうぐうあおいていえん）があります。平成 19 年 5 月に葵庭園が自然のホタル自生地となるよう願いを込め、池の護岸工事や八つ橋の造営、清流を保つポンプの設置が実施されました。この工事は川越葵ライオンズクラブの結成 30 周年記念事業として行われました。

川越葵ライオンズクラブは、平成 16 年から毎年 6 月末、ホタル観賞会「ホタル祭り」を実施しています。都会では見ることができなくなったホタルを川越で見学できるということで、ホタル祭りには子供を連れた家族が多く訪れています。